



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報

NO—144 2023.2.1

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム E-mail:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp

連絡先：鹿児島市鴨池新町 5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

ある少年との出会い

副代表 原園正敏

昨年の秋、夫婦で近所のうどん屋に行きました。中はほぼ満席で、威勢のいい「いらっしゃいませー。」の言葉に迎えられました。声の主を見ると、レジで会計をしている小学校高学年らしき少年でした。家の店の手伝いだろうなと思っていると、少年はレジをしながら私たちのことを「お二人様ご来店です。座敷3番テーブルです。」と厨房に伝えました。他にも、客の注文をとって厨房に伝え、厨房からだされたうどんをテーブルに運ぶなど、まるで、その少年が店全体を仕切っているような光景でした。ほどなくして入店した別の2人連れにその少年が注文をとりに行く、少年が人数とテーブル番号を厨房に伝えていたにもかかわらず、まだお茶が出されていませんでした。客が「お茶をください」と言うと、少年はすかさず「新人ばかりで申し訳ありません。」と言って頭を下げました。これを聞いた瞬間に、その客も含めてほぼ全てのテーブルの客が少年の方を見て「くすっ」と笑みを浮かべました。次に、客は少年に「お勧めはなんですか。」と尋ねました。すると少年は、「僕はこの〇〇が一番好きです。」と答えて、客はそれを注文しました。この時もほぼ全ての客が感心した顔で少年を見て、テーブルで何かをささやき合っ

ていました。私たちも「すごく機転が効く子だね。しかも客を和ませているし、店を仕切っている。」と話しました。

そんな様子を見ながら、「少し風変わりなこの子は、学校でもこんな風に自分を出しているだろうか？」と思い、一昨年、鹿児島県教職員組合と鹿児島県高等学校教職員組合が開催した「校則の見直し」のシンポジウムに参加していたお母さんの言葉を思い出しました。「うちの子は外国で生活していて日本の学校に転校して来ました。学校に『みんな違ってみんないい』という言葉が貼ってあってホッとしました。この学校でよかったと思いました。ところが実際は違っていました。みんなに同じであることを求める学校に行くのが、うちの子はつらくなり、学校に行けなくなってしまいました。」

子どもたちが安心して自分らしくいられる学校、みんな違っていい学校、子どもの最善の利益が守られる学校を創っていくと、りくみを教職員組合はすすめています。平和フォーラムに参画される皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



馬毛島基地建設強行実施に抗議する集会



「鹿児島に米軍はいらない県民の会」は、1月11日県庁前で塩田県知事へ「基地建設容認発言の撤回」を求め、また、鹿児島県教育長に「馬毛島遺跡の厳格調査の実施」を求める要請行動を行うとともに、国（防衛省）の強引な基地建設工事着工の動きに対し緊急に抗議集会を開催した。

翌12日は、防衛省は「環境アセス」評価書を公告、即日「工事着工」を強行実施した。現地種子島では、12日に抗議集会を開催した。

「地元住民に丁寧に説明を実施していく」とこれまで防衛省はたび重ねて説明してきたが、環境アセスの結果も十分周知することなく、「あまりにも強引なやり方で基地建設を強行」した。こうした国（防衛省）に断固強く抗議する。

岸田総理が米バイデン大統領との会談（2023.1.13）への「手土産」として、馬毛島基地強行着工を行ったことも、日本国民や地元住民を軽視し、アメリカに追随する岸田首相の姿勢があらわになったものであり、断じて容認できないやり方である。

今後とも、粘り強く「米軍FCLP基地建設」反対の取り組みを強めて行く決意である。



1.12「馬毛島FCLP基地建設」本体工事に反対する緊急集会

(馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会ニュースより)

政府防衛相は12日、馬毛島FCLP基地建設に係る環境アセス「評価書」を公告し、本体工事に着手しました。

熊毛ブロック護憲平和フォーラムは「(以降、連絡会という)」と共催し、港が見える産業道路の歩道で、反対する市民約70人が参加して緊急集会を開催しました。

集会は、前園美子連絡会副会長の司会で始まり、代表あいさつで山内光典会長が「政府防衛省は本日、環境影響評価の最終



報告書を公告し、即日、馬毛島基地建設本体工事に着手しようとしています。私たち連絡会は、米軍空母艦載機の陸上離発着訓練を目的とする大規模な自衛隊基地を馬毛島に建設することを、地元の合意なしに強引に推し進めようとする政府防衛省に強い怒りをもって抗議します。昨日、県庁に出向き、県知事に対して『鹿児島県議会において2022年11月29日、馬毛島への自衛隊施設を整備すること等については、県としては理解せざるを得ない』と発言したことについて、地元、西之表市長の明確な表明がない中、知事が先んじて馬毛島基地建設を容認する、このような発言に対し、私たち市民・団体連絡会は強い憤りを覚えています。よって、発言を撤回するよう申し入れました。また、県教育委員会教育長に対し、馬毛島における『八重石遺跡』の発掘調査については「防衛省発注の工事により発掘調査が滞ることの無いよう、是非とも国に対して申し入れを行っていただきたい」との要望を行ってきました。

私たちは諦めることなく、馬毛島への米軍施設計画の白紙撤回を政府防衛省に求めて行きましょう」と決意を述べました。

続いて、鹿児島県護憲平和フォーラムの磨島昭広事務局長が連帯のあいさつを行い、参加者3人(宇野裕未様、川野格様、尾形公雄様)が決意表明を行いました。次に、馬毛島に向かって参加者全員でシュプレヒコールを行い、集会決議文を読み上げ全員の拍手で承認、戸畑和己副会長の閉会あいさつで集会を閉じました。

集会後、連絡会は九州防衛局熊本防衛支局長宛て、集会決議文を提出しました。



奄美ブロック紹介奄美群島の護憲・平和・人権・環境問題を取り扱う平和団体

「奄美ブロック護憲平和フォーラム」は、2010年に「奄美地区平和運動センター」を改称して13年が経過し、1993年までは、奄美地区労センターという歴史があります。

事務所は、鹿教組奄美支部の所有する新奄美大島教育会館内にあり、3年前に奄美市役所と背中合わせの幸町25-3から永田町2-27に移転し、会館前を大島支庁舎前からの永田川が流れています。

定期大会は、例年7月の最終土曜日に開催され、新年度の運動方針、役員選出を行なっています。代議員は、各島の町村労組や労金労組、しまバス労組、県職労、徳之島三町フォーラム、永良部フォーラム等で組織されています。

年間の主な運動は、

島の平和運動は、「奄美の自然と平和を守る郡民会議」の活動と重なるようになっています。

群民会議の事務局は、平和フォーラムの事務局長が担当する関係からです。奄美の平和運動は復帰運動以来、超党派でとりくんでいた歴史がありましたが、今は自民党や公明党関係者は抜けています。

各種集会に参加するメンバーは、

平和フォーラムの組合員と地区労連の組合員、社民党員、立憲民主党員、共産党員、それに少数の一般の市民です。最近は高齢化が進み参加者人数が減少しつつあります。

護憲運動は、「奄美九条の会ネットワーク」(名瀬九条の会、龍郷九条の会、大和九条の会等との連合体)と合同で開催しています。

自衛隊関係は、「戦争のための自衛隊配備に反対する奄美ネット」と共催でとりくんでいます。

**主なスケジュール**

- 2・11 「紀元節復活反対し、信教の自由を求める集会」は、護憲平和フォーラム単独開催、天皇制問題や信教の自由を基本に、現在の政治状況などを講師に解説していただいております。
- 3・11 「さよなら原発」実行委員会主催、川内原発再稼働反対、60年延長反対を国の原子力政策批判を島民にも訴えている。
- 5・3 「憲法記念日集会」は、奄美憲法九条の会ネット主催、改憲勢力の国会議員が3分の2を占める現状で、国会発議をさせないための世論構築を図らなければならない。
- 8・15 「敗戦記念日集会」は、奄美憲法九条の会主催、奄美各地で戦没者慰霊祭がとり行なわれているが、戦没者の顕彰の意向が強く、これからの反戦の誓いが疎かにされている。戦争体験談や、戦禍フィルム等を活用して反戦を訴えている。
- 10・21 国際反戦デーは群民会議主催、当時の復帰運動集会が行われた石段が残る

名瀬小学校校庭を会場に開催している、世界で起こっている戦争、内戦、紛争に焦点をあて、地球環境を含めての人間としての対処のあり方を問うている、集会の後は夕暮れの街に出てキャンドルデモを行い、市民に反戦を呼び掛けている。

12・25「復帰記念・平和を願う集会」は、郡民会議主催、復帰から学んだことは、二度と戦争をさせないこと、復帰の顕彰、記憶の継承だけでなくこれからの平和推進に力点を置いて、訴えている。

「日米軍事訓練反対集会」は、郡民会議主催で行っている。去年は9月11月、奄美集会、11月は自衛隊基地の空白地徳之島集会を開催した。日米軍事同盟に自衛隊を米軍の指揮下で参戦させてはならない。

***これから、益々「護憲・平和フォーラム」のとりくみが「地球の平和」を左右する。**



南薩ブロック護憲平和フォーラムは、1月14日(土)午前、指宿市「なのはな館」で、県護憲共同代表の下馬場学さんを講師に、「琉球弧・鹿児島で今何が? 暴走する軍事強化」と題しての講演会を開催しました。

当日は49人の参加のもと、質疑も含めて学習する機会となりました。今後も節目節目で開催していきたいと思ひます。

鹿児島ブロック護憲平和フォーラムは、1月28日(土)午後1時半から、鹿児島県青少年会館において、新春団結集会を開催しました。

講師に下馬場学・県護憲代表を招いて、南薩ブロックと同じテーマで講演をお受けしました。当日は約50名の参加。



2月の取り組み

- 2月 4日(土) 有田芳生講演会「旧統一教会問題を考える」
川商ホール(鹿児島市与次郎) 14時～ 入場料 1,000円
- 2月 11日(土) 「紀元節復活に反対し、思想・信教の自由を守る県民集会」 10時～12時 県労働者福祉会館7階ホール zoom併用
講師: 佐野 通夫(東京純心大学教授)
- 2月 11日(土) 川内原発防衛訓練 監視行動 薩摩川内市 該当ブロックへ参加要請中
- 2月 23日(木) 憲法壊すな・戦争法廃止かごしまの会 学習講演会
安保関連3文書の改訂が目指すものとは何か(仮題)
県民交流センター3階大研修室 14時～16時半
講師: 井上 正信(弁護士)